

令和 2 年 度 獨協埼玉中学校 自 己 評 価 シ ー ト

目指す学校像	豊かな感性、健康な心と体を育み、自ら考え判断できる生徒を育てる。
--------	----------------------------------

重点目標	1. 中学3年間で身に着けるべき学習目標の達成に向けて教育内容の充実を図る。 2. SNSの利用に関して細かな指導を行い、同時に保護者への協力を依頼する。 3. 規律ある生活態度と豊かな人間性、社会性を培う教育活動を推進する。
------	---

達成度	A	ほぼ達成	(8割以上)
	B	概ね達成	(6割以上)
	C	変化の兆し	(6割以上)
	D	不十分	(4割未満)

学 校 自 己 評 価							学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標					年 度 評 価 (3月31日 現在)		実 施 日 令 和 3年 5月 15日	
番 号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 方 策	方 策 の 評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策	学 校 関 係 者 からの 意 見 ・ 要 望 ・ 評 価 等
1	朝学習、読書・新聞の時間、小テスト、補習など基礎学力の育成に向けて様々な取り組みをしているが、中学から高校への移行期の中だるみの傾向を改善する必要がある。 日常の学習習慣の定着。 (継続)	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習の内容小テストの実施とその効果 興味を持ち自ら目標設定ができていくか 検定試験の目標設定の明確化 学習習慣定着のための試みがなされているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習、小テストの実施方法、内容の吟味と日常学習の定着を促す。 希望者に対して、授業の枠を外して、興味関心を抱くような課題提供を行う。 学年、教科ごとに検定試験の目標を明確にする。 放課後の自習時間の設定。 もう少し知りたいと思うような、モチベーションアップにつながる授業の展開。 	<ul style="list-style-type: none"> 効果的な内容と、小テストに対するフォロー。 学習内容だけではなく、取り組む姿勢に対しても生徒と接点を持つことができたか。 より積極的に何かに取り組もうとする気持ちを育てることができたか。 検定試験の目標は明確になっているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 小テストの事前予告の時期を早め、準備をして受験するよう促し一定の効果は得られたが、取り組みに対する生徒間の差は解消できなかった。 上級生による補助は勉強に向かう姿勢を問いただす意味である程度効果的であった。 提供された課題に興味を持ち、楽しみながら取り組むとともに通常の授業における積極性に変化があるなどの効果が見られた。 設定目標に向けて努力する生徒が少しずつ増えている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 継続して生徒が主体的に学習に向かう環境を生み出す努力が必要である。 登校から朝のHRまでと放課後に、生徒が自主的に勉強するための場所が必要である。 	1. 検定試験など具体的な目標があると朝学習や自習時間も主体的に学習できると思います。特に英語は文系理系問わず受験に必要で、中学でつまづいてしまうとどんどん遅れをとってしまうので、中学3年で英検3級を全員が取れるようになど目標を定め、できない生徒のレベルを引き上げ、できる子できない子の差を縮める事ができると思います。また、高校受験が無い分中学3年間を通して様々な体験ができるのが強味であり、(コロナ禍では難しいですが状況が落ち着いたら)稲作、サマーキャンプ、演劇鑑賞、職業体験などは今後も是非続けてほしいです。
2	携帯電話の使用法やSNSによるトラブルが後を絶たない。公共の場での使用方法に対する指導も継続して必要である。 (継続)	<ul style="list-style-type: none"> 携帯電話の使用実態の把握 SNSの利用法に対する指導状況とその効果の把握 	<ul style="list-style-type: none"> 学校内での携帯電話に関するルールの徹底と指導。 家庭での携帯電話の使用に関して保護者の協力を依頼。 携帯電話教室を開催し、主にSNSの利用について講義を行い考える。 	<ul style="list-style-type: none"> SNSによるトラブルは減少したか。 校内・公共の場・家庭内における携帯電話利用のルールは守られているか。 携帯電話教室による効果の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 携帯電話教室の実施、各家庭への協力依頼、HRにおける日常の指導等を行っているが、SNSに関する様々な事象が引き続き起こっている。 	C	<ul style="list-style-type: none"> SNSをはじめ携帯電話を中心とした環境はますます難しくなっている。さらなる指導の継続を行う必要がある。 	2. SNSをはじめとした携帯電話のトラブルは、特に中学入学時における新しい友達関係、環境の変化、中学受験後の解放感などでおこりやすくなるので、使い方によってはイジメ問題や学力低下、出会い系サイトによるトラブルなど様々な問題を引き起こしかねないので、学校に全て任せるのではなく家庭でも指導を続けていく必要があると思います。
3	ICT導入をさらに進める。具体的には、プロジェクター設置による授業の質的向上。校内Wi-Fi化の実施。一人一台端末所有に向けての検討など。	<ul style="list-style-type: none"> ICT導入における具体的な進展状況の把握 	<ul style="list-style-type: none"> 校内Wi-Fi化の実施。 情報センター・ICT委員会を中心にギガスクール構想の検討。 	<ul style="list-style-type: none"> ICTの導入に向けて具体的な進展がみられるか。 社会の動きと比較して、本校の持つ特色を反映した目標設定になっているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校内全域でのwi-fi化を実施。 新型コロナウイルス感染症に対応するため一人一台端末所有を実現。Chromebookの購入にあたっては各家庭にご協力をいただくと同時に学校からも補助を行った。 数回にわたって、教職員に向けてのICTの研修を行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学びを止めないため、また、授業内や家庭学習を支えるために教員の研修を続ける必要がある。 	3. 今後もChromebookを活用し、先生からの小テストや定期テストに向けた情報配信を生徒が確認し、生徒はスケジュールを自ら管理しながら計画的な学習に繋がればと思います。